

神奈川県と静岡県の県境をまたぐ道路 (伊豆湘南道路)に関する委員会

神奈川県 静岡県

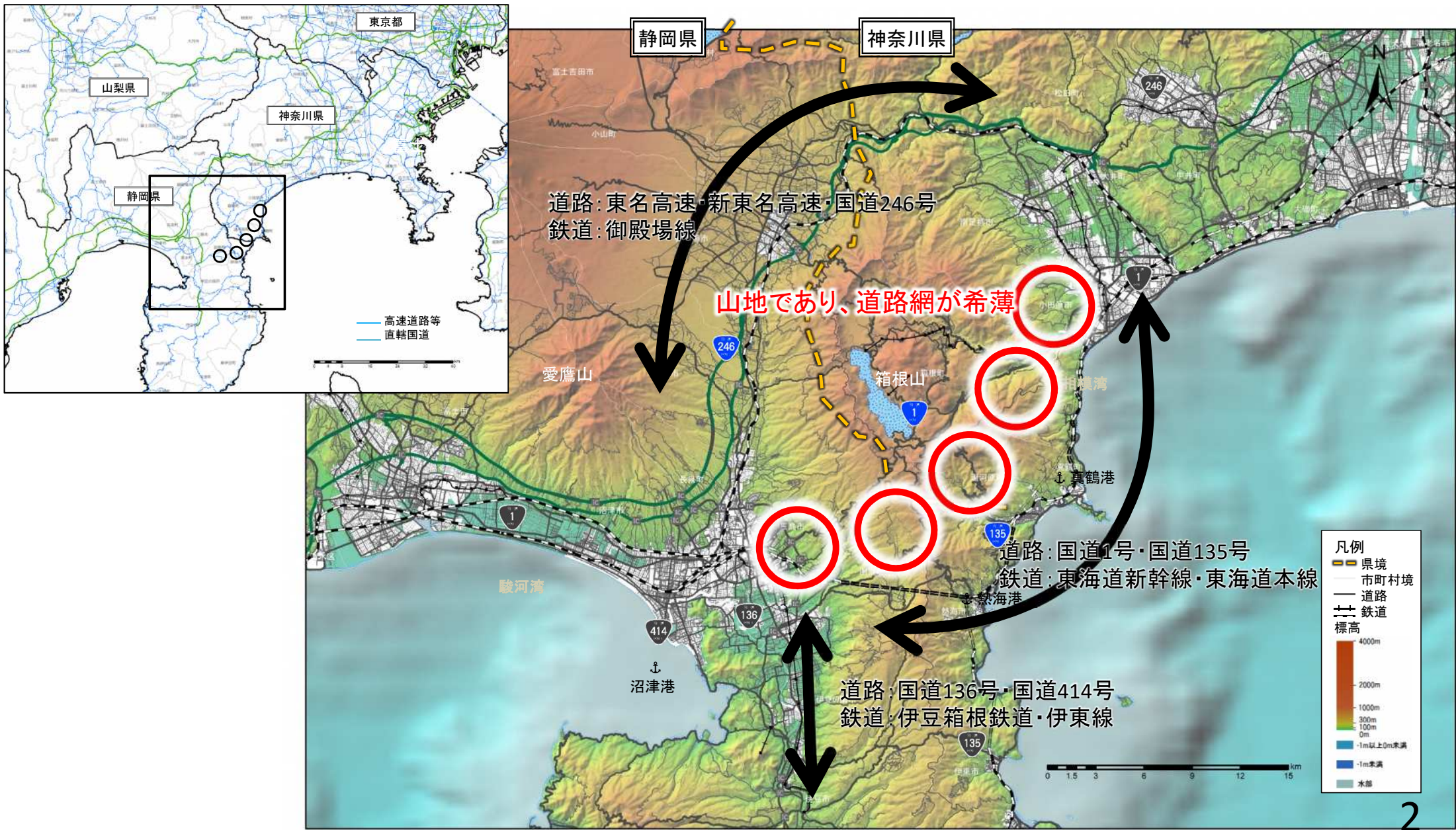
【日時】令和5年3月24日(金)10:00~

【場所】新横浜ホール第9会議室

1. 前回審議内容
2. 第1回意見聴取の結果
3. 政策目標の設定
4. 今後の検討の進め方(案)

1. 前回審議内容1

- 対象区間は、神奈川県西部から静岡県東部の約30kmの区間である
- 箱根山の裾野であるため、急峻な山地と相模湾に挟まれている地域である



1. 前回審議内容2

■令和3年度 第1回神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)に関する委員会の概要

開催日	令和3年6月30日(水)開催
議事内容	<ul style="list-style-type: none">①手続きの進め方(案)②地域の状況③道路交通の現状と課題④政策目標(案)の設定⑤地域からの意見聴取方法(案)

1. 前回審議内容3

■ 前回審議での主なご意見と対応状況

	委員からの指摘事項	対応状況	該当箇所
政策目標(案)	渋滞緩和による環境負荷軽減や快適性向上の要素を入れた方がよい	<u>指摘事項と意見聴取結果を併せ、政策目標(案)を修正</u>	P19
	速達性、定時性の確保を目標に掲げる中、物流効率化がもたらす産業振興の側面を入れた方がよい	<u>指摘事項と意見聴取結果を併せ、政策目標(案)を修正</u>	P19
地域からの意見聴取方法(案)	アンケート設問で「災害時などに代わりになる道路」は、災害時などで通行止めによりという表現に見直した方がよい	<u>アンケート票の設問を修正</u> 災害時などに代わりになる道路→災害等による通行止めの際に代わりになる道路	P5
	アンケート設問で「災害に強い道路」とあるが、脆弱な道路網を強化するという意味では、表現を見直した方がよい	<u>アンケート票の設問を修正</u> 災害に強い道路であること→災害などに強く、迂回可能な道路網がつけられること	P5
	駅などで、その場で回答できるよう二次元コード入りのポスターを掲示するなどの検討も重要	その場でも回答ができるように、ポスター及びチラシに二次元コードを付けて、掲示及び配架を実施	P6
	意見聴取範囲はより広げた方がよい	伊豆南部の自治体へもアンケートを実施	P7 下田市、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町を追加
その他	概略ルートを決めるための具体的な作業は委員会の中で出てこないのか	課題を整理の上、求められる道路の機能などを整理しながら、ルート帯を検討していく	P20～
	有料道路として整備をするのか無料道路として整備するのか、という整備手法についても並行して議論していく必要がある	委員からの御指摘を踏まえ、今後検討する	P20～
	このエリアは、技術的に相当難しく、どうしても投資資金(事業費)が問題		

1. 前回審議内容4

- アンケート票の設問を「災害時などに代わりになる道路」から「災害等による通行止めの際に代わりになる道路」に変更し、どのような際にといい表現が分かり易くなるように修正
- 「災害に強い道路」から「災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること」に変更し、道路網を強化する表現に修正

変更前: 第1回委員会提示(案)

変更後: 第1回意見聴取

神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)について

問1 神奈川と静岡の県境周辺道路(国道1号・135号や熱函道路など)を利用しますか又は利用したことがありますか ある ない

「ある」と答えた方への質問

主に利用する目的は何ですか 1:通勤・通学 2:仕事 3:日常の買い物・通院 4:観光・レジャー 5:その他()

主な目的地はどこですか ()県()市・町

問2 神奈川と静岡の県境周辺の道路(国道1号・135号や熱函道路など)の課題として考えられる次の①～④の項目を4段階評価し、必要に応じ⑤、⑥をご記入ください。【4段階評価】
4:強く思う 3:どちらかというと思う 2:どちらかというと思わない 1:全く思わない

課題事項	あなたの評価の程度			
①災害時などに代わりになる道路がないこと	4	3	2	1
②高低差やカーブが多く、交通事故が多いこと	4	3	2	1
③規格の高い道路が少なく所要時間がかかること	4	3	2	1
④渋滞により目的地への到着時間が読めないこと	4	3	2	1
⑤その他()	4	3	2	1
⑥課題はない	4	—	—	—

問3 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)に期待することは何ですか。次の①～⑤の項目を4段階評価し、必要に応じ⑥、⑦をご記入ください。【4段階評価】
4:強く思う 3:どちらかというと思う 2:どちらかというと思わない 1:全く思わない

期待事項	あなたの評価の程度			
①災害に強い道路であること	4	3	2	1
②周辺道路の事故が減少すること	4	3	2	1
③移動時間が短縮されること	4	3	2	1
④到着時間が読めること	4	3	2	1
⑤観光振興など地域の活性化に寄与すること	4	3	2	1
⑥その他()	4	3	2	1
⑦期待することはない	4	—	—	—

問4 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)の検討を行うにあたり、御意見や御要望等がありましたらお聞かせください。

御協力ありがとうございました

神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)について

問1 神奈川と静岡の県境周辺道路(国道1号・135号や熱函道路など)を利用しますか又は利用したことがありますか ある ない

「ある」と答えた方への質問

主に利用する目的は何ですか 1:通勤・通学 2:仕事 3:日常の買い物・通院 4:観光・レジャー 5:その他()

主な目的地はどこですか ()県()市・町

問2 神奈川と静岡の県境周辺の道路(国道1号・135号や熱函道路など)の課題として考えられる次の①～④の項目を4段階評価し、必要に応じ⑤、⑥をご記入ください。【4段階評価】
4:強く思う 3:どちらかというと思う 2:どちらかというと思わない 1:全く思わない

『課題』事項	あなたの評価の程度			
①災害等による通行止の際に代わりになる道路がないこと	4	3	2	1
②高低差やカーブが多く、交通事故が多いこと	4	3	2	1
③規格の高い道路が少なく所要時間がかかること	4	3	2	1
④渋滞により目的地への到着時間が読めないこと	4	3	2	1
⑤その他()	4	3	2	1
⑥課題はない	4	—	—	—

問3 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)に期待することは何ですか。次の①～⑤の項目を4段階評価し、必要に応じ⑥、⑦をご記入ください。【4段階評価】
4:強く思う 3:どちらかというと思う 2:どちらかというと思わない 1:全く思わない

『期待』事項	あなたの評価の程度			
①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること	4	3	2	1
②周辺道路の事故が減少すること	4	3	2	1
③移動時間が短縮されること	4	3	2	1
④到着時間が読めること	4	3	2	1
⑤観光振興など地域の活性化に寄与すること	4	3	2	1
⑥その他()	4	3	2	1
⑦期待することはない	4	—	—	—

問4 神奈川と静岡の県境をまたぐ道路(伊豆湘南道路)の検討を行うにあたり、御意見や御要望等がありましたらお聞かせください。

御協力ありがとうございました

1. 前回審議内容5

■ その場でも回答ができるように、ポスター及びチラシに二次元コードを付けて、掲示及び配架を実施

ポスター掲示・チラシ配布状況



神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）の計画に関するアンケートに御協力をお願いします

アンケート回答期限：令和3年9月17日（金）まで

本アンケートは、神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）を検討するにあたり、計画づくりの初期の段階から、皆様の御意見をお聞かせいただくために実施するものです。
 神奈川と静岡の県境周辺について、皆様が日頃感じられている道路交通面での課題や、求められる道路の役割等について御意見を伺いたく、御協力をお願いいたします。

5問程度の簡単なアンケート アンケートはこちら
 どなたでも御回答いただけます <https://bit.ly/3g5kCoR>

小田原市、真鶴町、湯河原町、熱海市、函南町にお住まいの方には、御自宅にアンケートを郵送しています。

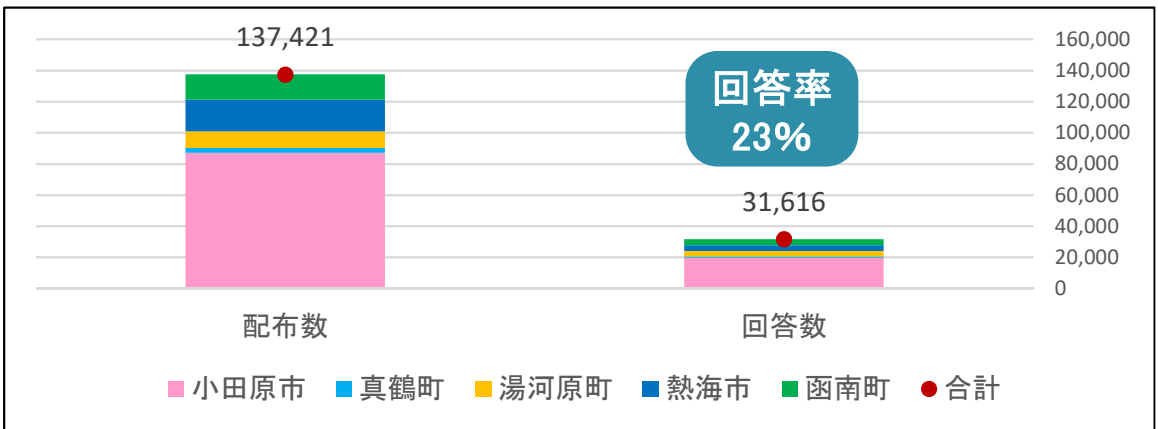
「伊豆湘南道路」とは
 静岡県伊豆地域と神奈川県西部地域を結ぶ新たな道路構想です。静岡・神奈川県で計画づくりを進めています。

お問い合わせ先

静岡県 交通基盤部 道路局 道路企画課 〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6 電話：054-221-2938	神奈川県 県土整備局 道路部 道路企画課 〒231-8588 神奈川県横浜市中区日本大通1 電話：045-210-6423
--	---

2. 第1回意見聴取の結果 2-1) 意見聴取の期間・対象

- 意見聴取期間は、令和3年8月10日～9月17日。
- 住民、道路利用者、周辺自治体、各種団体を対象にアンケートを実施



対象	調査方法	配布数	回答数
住民 ● ルートが想定される5市町の全戸配布（タウンプラス利用） 神奈川県：小田原市(87,135世帯)、真鶴町(3,119世帯)、湯河原町(10,705世帯) 静岡県：熱海市(20,246世帯)、函南町(16,216世帯)	ハガキ回答 WEB回答	137,421世帯	31,616 (内 WEB 8,237)
道路利用者 ● 周辺地域の「道の駅」「漁港の駅」（地図上：）「鉄道駅」など ● 高速道路のSA/PA（地図上：） 東名高速道路：海老名SA、足柄SA、鮎沢PA、中井PA 新東名高速道路：駿河湾沼津SA 小田原厚木道路：平塚PA、大磯PA、小田原PA 西湘バイパス：西湘PA ● 有料道路の料金所入口 ターンパイク箱根、箱根・芦ノ湖スカイライン、 真鶴道路、熱海ビーチライン、伊豆スカイライン、伊豆中央道	WEB回答	チラシ配布 10,000枚 ポスター配布 150枚	1,580 (内 WEB 1,101)
周辺自治体 神奈川県：南足柄市、二宮町、中井町、大井町、開成町、箱根町 静岡県：沼津市、三島市、伊東市、下田市、裾野市、伊豆市、 伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、 西伊豆町、清水町、長泉町	電子メール	20自治体	19自治体 (44部局)
各種団体 消防署、警察署、病院、商工会議所、トラック協会、観光協会、 旅行業協会、農業協同組合、漁港協同組合、道の駅、道路管理者など	ハガキ回答 WEB回答	141団体	311 (内 WEB 175)

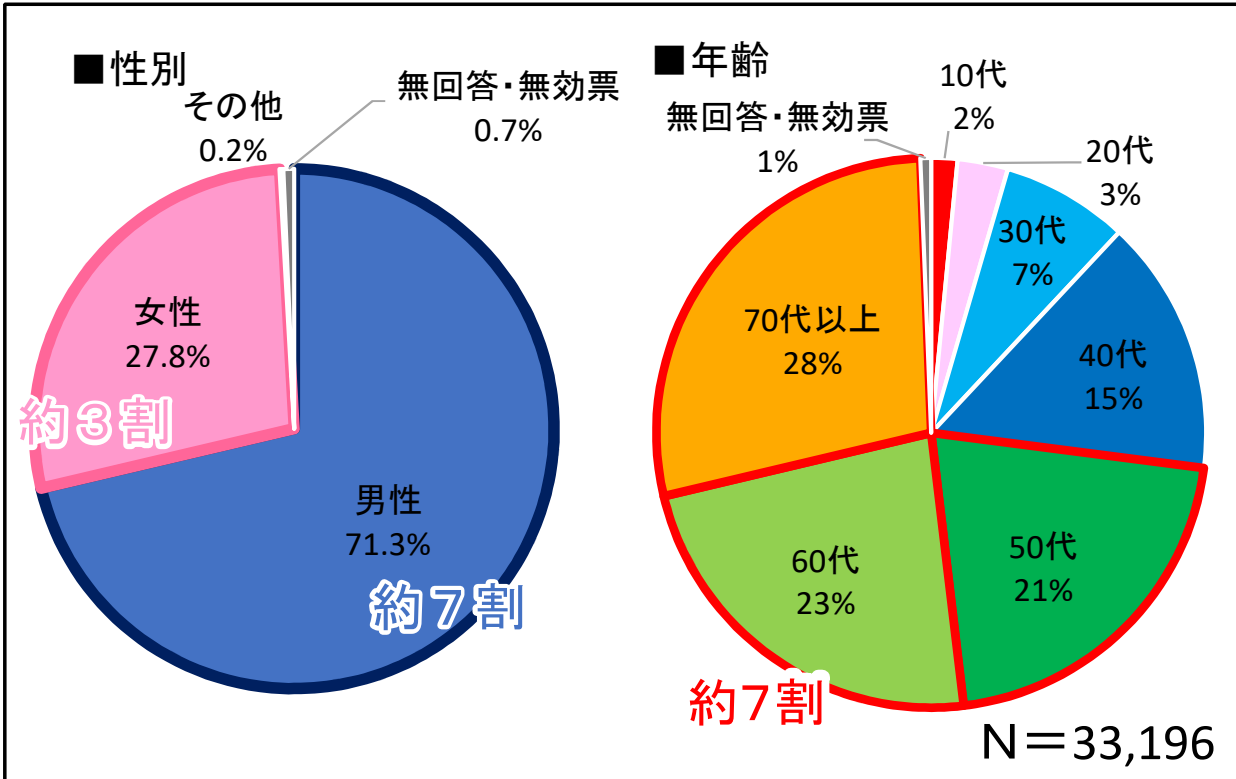
2. 第1回意見聴取の結果 2-2) 回答者属性①

- 住民31,616人、道路利用者1,580人、団体等330から意見を回収
- アンケート回答者の約7割が男性、約3割が女性
- 年齢はどの年代からも回答があったが、50代以上が約7割となった

■ アンケート回収状況

分類		回収数 (件)	
総合計	個人 (合計)	住民	31,616
		道路利用者	1,580
			33,196
	団体等	330	
		33,526	

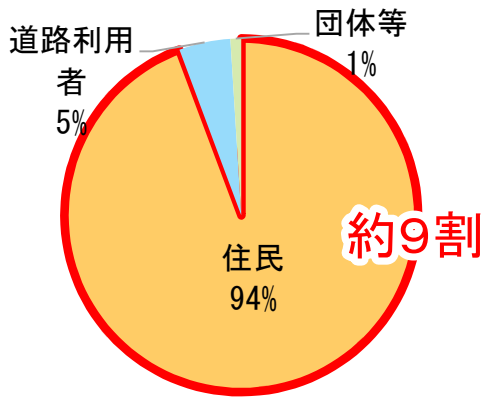
■ 個人の属性



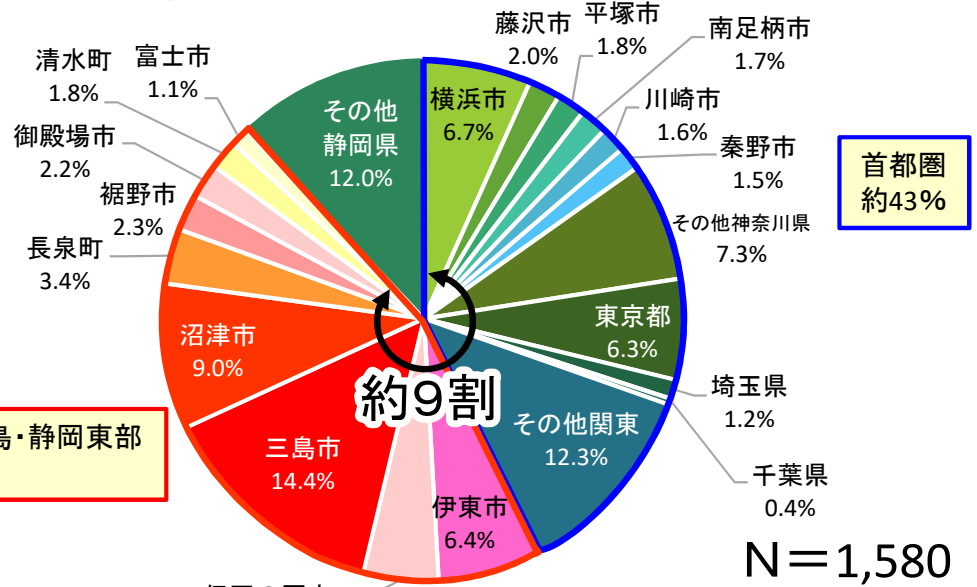
2. 第1回意見聴取の結果 2-2) 回答者属性②

- アンケート回答者の約9割が住民であった
- 道路利用者は、約9割が首都圏(約43%)と伊豆半島・静岡東部(約45%)からの回答であった

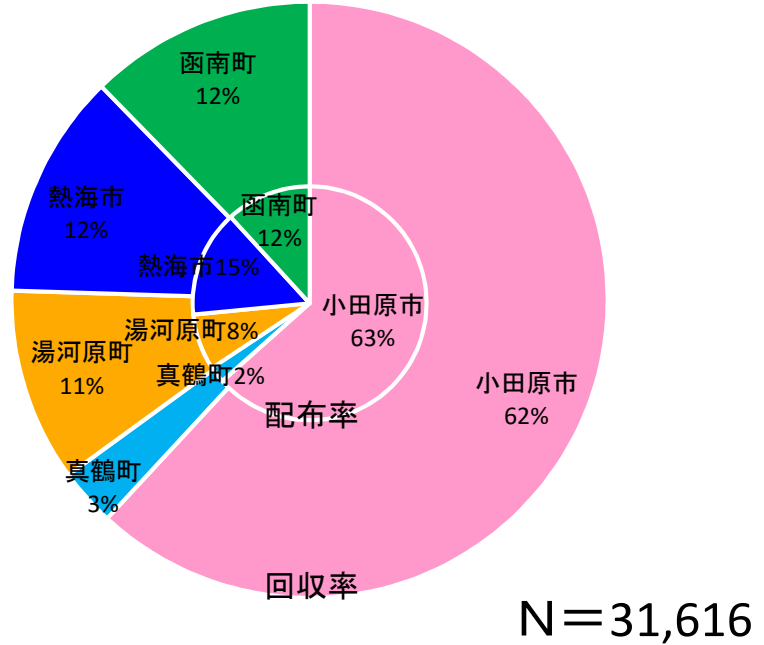
■ 回答者の分類



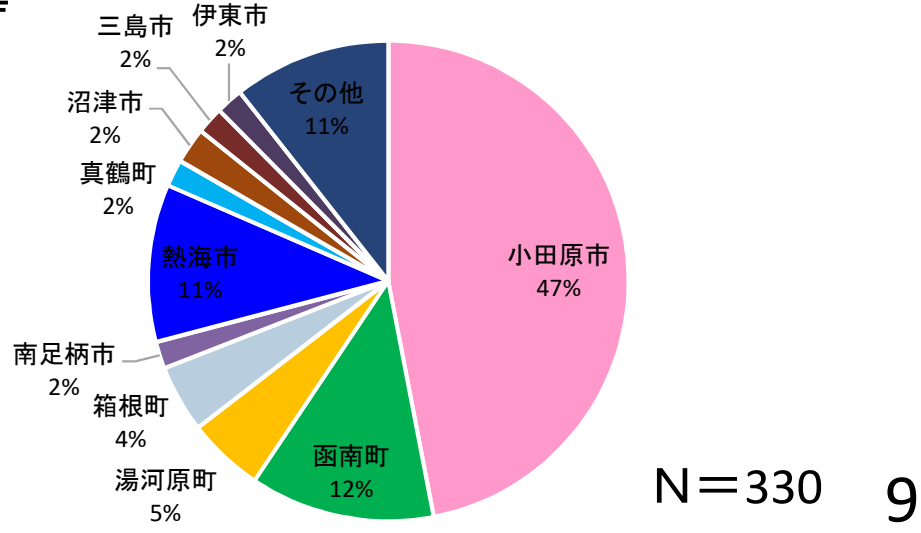
■ 道路利用者



■ 住民



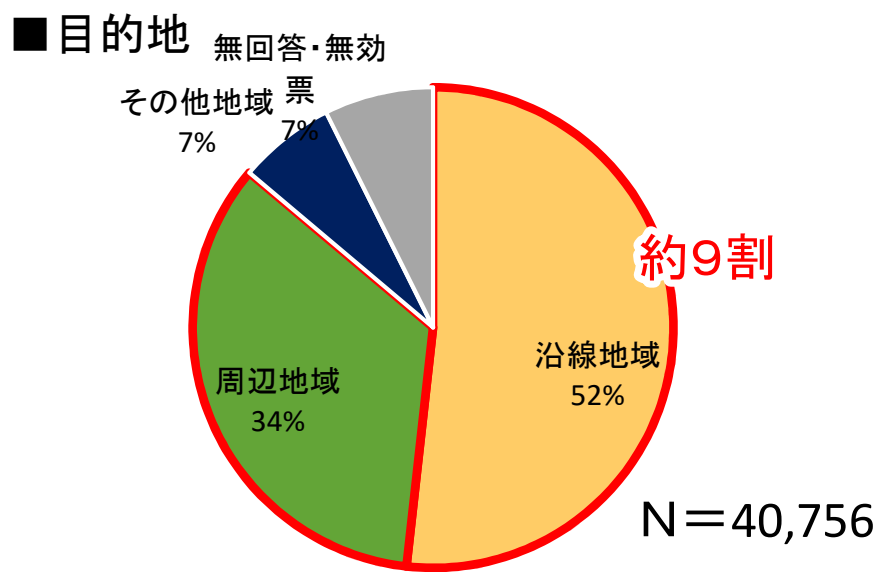
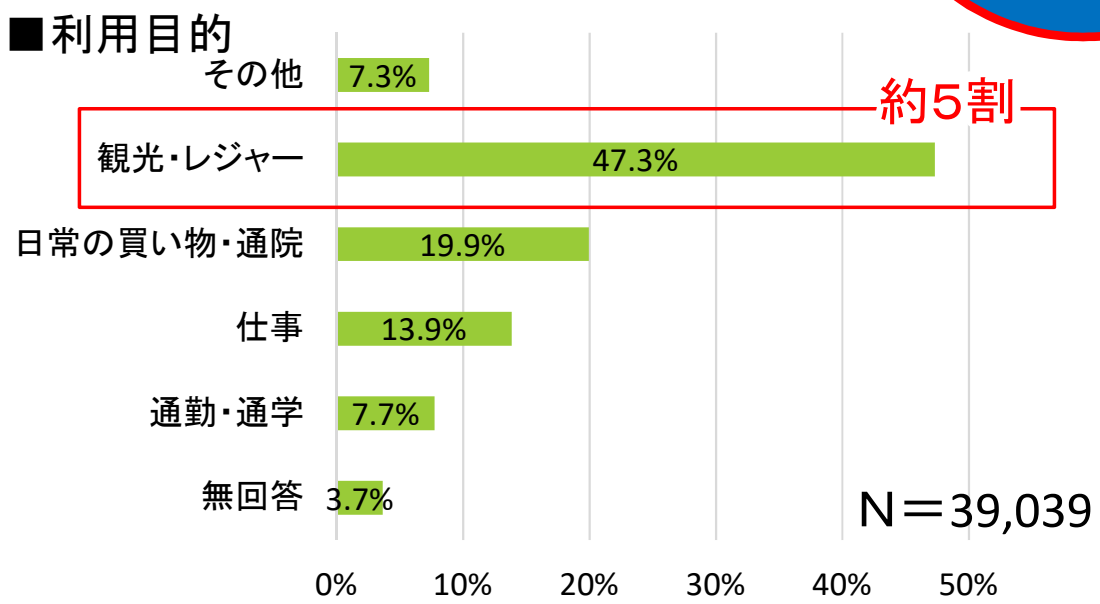
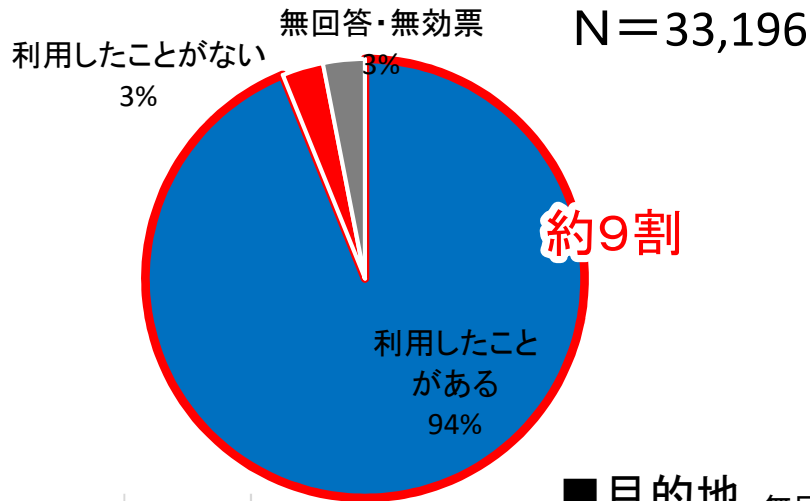
■ 団体等



2. 第1回意見聴取の結果 2-3) 回答者の県境周辺の道路の利用形態

- 神奈川と静岡の県境周辺道路（国道1号・135号や熱函道路など）の利用者の主な利用目的は「観光・レジャー」で利用する方が約5割となっている
- 神奈川と静岡の県境周辺道路利用者の目的地は、沿線・周辺地域を目的地にする方が約9割となっている

■ 神奈川と静岡の県境周辺の道路（国道1号・135号や熱函道路など）の利用状況



※単一回答にてアンケートは実施。複数回答が多かったため、複数回答も重複して集計

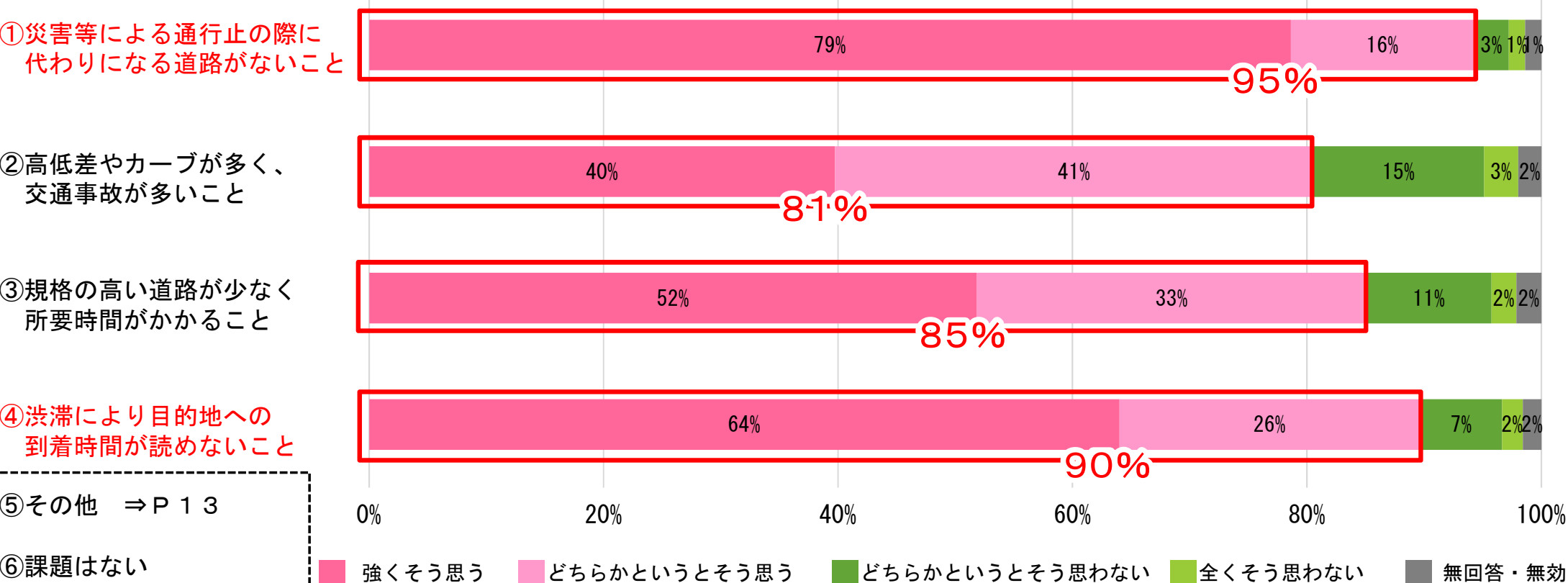
沿線地域：小田原市・真鶴町・湯河原町・熱海市・函南町
 周辺地域：南足柄市・二宮町・大井町・開成町・箱根町・沼津市・三島市・伊東市・下田市
 伊豆市・伊豆の国市・東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町・長泉町
 その他地域：東京都23区・横浜市・平塚市・伊勢原市・静岡市 など

2. 第1回意見聴取の結果 2-4) 県境周辺の道路の課題①

①全体

- 道路の課題については、全ての項目について、8割以上の方が課題と認識
- 「①災害等による通行止の際に代替りになる道路がないこと」「④渋滞により目的地への到着時間が読めないこと」が課題との意見は9割以上となっている

Q：神奈川と静岡の県境周辺の道路（国道1号・135号や熱函道路など）の課題として考えられる次の①～④の項目を4段階評価し、必要に応じ⑤、⑥をご記入ください。

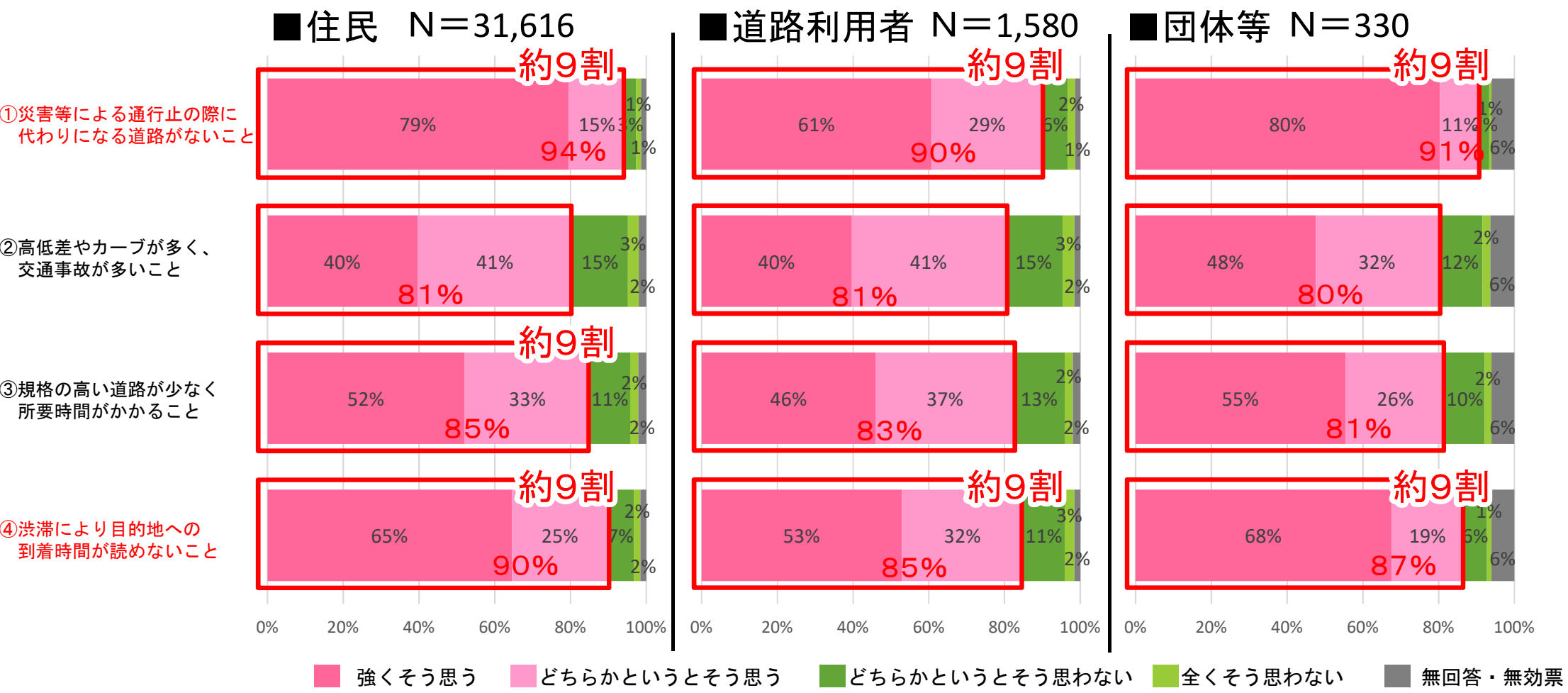


⑤その他 ⇒ P 13
⑥課題はない
➡ N = 663 (2%)

2. 第1回意見聴取の結果 2-4) 県境周辺の道路の課題②

②対象者別

- 住民、道路利用者、団体等それぞれにおいて、「①災害等による通行止めの際に代わりになる道路がないこと」が最も大きな課題として認識され、9割以上の回答
- 「渋滞により目的地への到着時間が読めないこと」が次いで多く、約9割の回答
- 住民の回答では、「③規格の高い道路が少なく所要時間がかかること」も約9割の回答となっている



2. 第1回意見聴取の結果 2-4) 県境周辺の道路の課題(その他の意見)

③その他の意見

- 約半数が、設問に関連付いた、渋滞や災害に関することであった。
- また、通過交通と生活交通の混在の課題や広域的な視点からも災害に関する課題の意見があった。

回答⑤「その他」 N=3,005

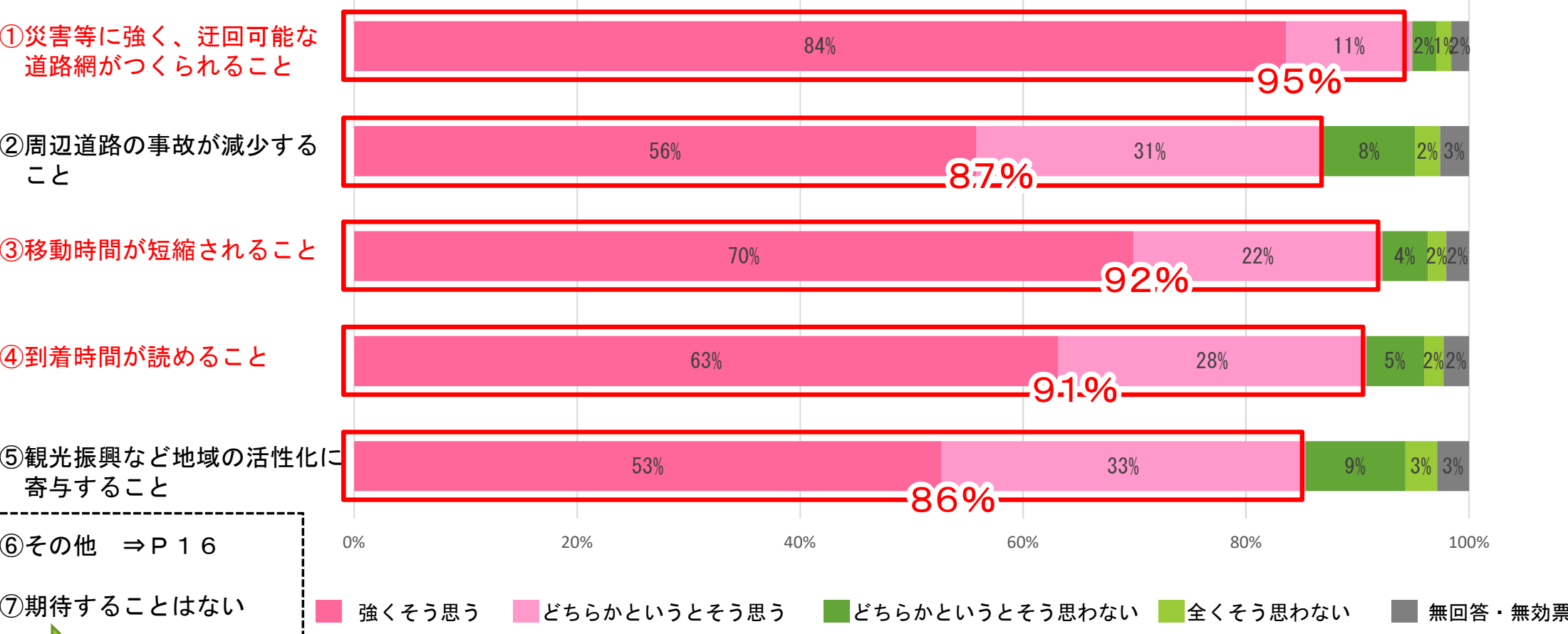
主な内容	記載
渋滞に関すること N=1,059	<ul style="list-style-type: none"> ・観光レジャーの車が多く渋滞が常態化し、日常生活に支障をきたす (湯河原町:70代以上男性) ・抜け道となる道路がほとんどなく、生活道路にもなっているため、事故などで渋滞などになってしまうとどうにもならない (熱海市:50代男性) ・国道135は、夏季に渋滞がひどく、夏季は湯河原、小田原方面に行くことを控える (熱海市:40代男性) ・小田原循環器病院に伊東市の救急車が来ているのを見て、驚きました。これが、週末の大渋滞時だと思えば、救急搬送は機能しないです (小田原市:50代男性) 等
災害に関すること N=655	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季の豪雪時や災害時には東名、国道1号線が通行止めになることがあり、国道246号線が動かなくなることもある。函南から湘南へ抜ける道があれば少しはましになると思う。(三島市:50代男性) ・火山噴火や津波が来た時に孤立地域が多くでき、救助が困難になるその為に必要だと思う(秦野市:50代男性) ・海岸沿いの135号は津波発生時の迂回道路がない (真鶴町:60代女性) 等
道路が狭小であること N=241	<ul style="list-style-type: none"> ・135号は幅員も狭い (小田原市:70代以上男性) ・道路がせまく緊急車両の通行が困難な時がある (湯河原町:40代女性) ・ガケが多く落石がある。道路幅が狭い (小田原市:70代以上男性) 等
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・箱根新道は雨量規制やチェーン規制がかかりやすく不便を感じる人が多い (函南町:30代男性) ・日常生活道路と、観光道路が、一緒なのは課題 (湯河原町:50代男性) ・生活道路としての役割と幹線道路としての役割が一緒なのは、災害時を含め問題が多いと思う。(伊豆の国市:50代女性) ・東名・新東名へのアクセスが悪い (熱海市:50代男性) 等

2. 第1回意見聴取の結果 2-5)伊豆湘南道路に期待すること①

①全体

- 全ての項目について約9割の方が伊豆湘南道路に期待することとして回答
- 「①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること」、「③移動時間が短縮されること」、「④到着時間が読めること」を期待する意見は9割以上の回答
- 「①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること」は「強くそう思う」と回答した方だけでも8割以上の回答

Q：神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）に期待することは何ですか。
 次の①～⑤の項目を4段階評価し、必要に応じ⑥、⑦をご記入ください。

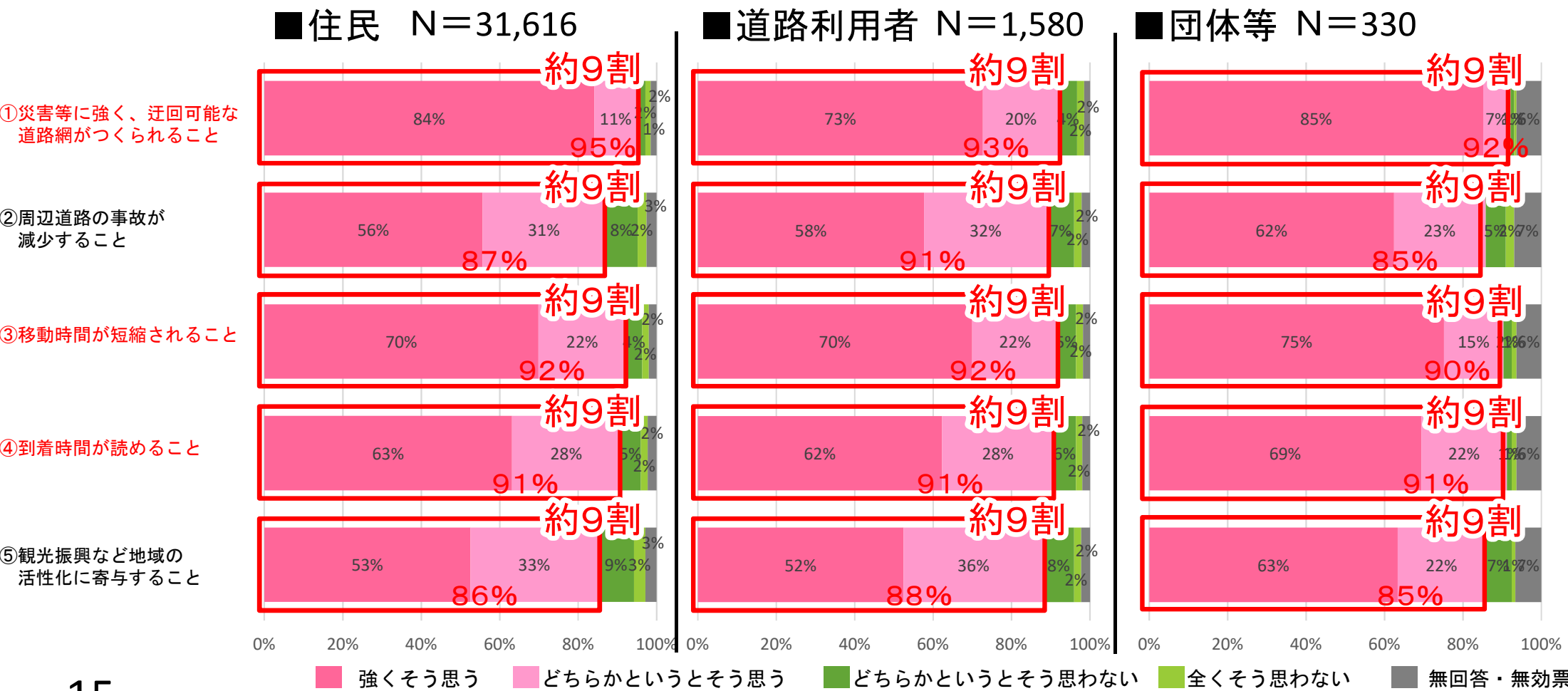


⑥その他 ⇒ P 16
 ⑦期待することはない
 N = 763 (2%)

2. 第1回意見聴取の結果 2-5)伊豆湘南道路に期待すること②

②対象者別

- 住民、道路利用者、団体等それぞれ全ての項目において、約9割が伊豆湘南道路に期待することとして回答
- 「①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること」、「③移動時間が短縮されること」、「④到着時間が読めること」を期待する意見は9割以上の回答
- 住民、団体等は、「①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること」が「強くそう思う」と回答した方だけでも8割以上の回答



2. 第1回意見聴取の結果 2-5)伊豆湘南道路に期待すること(その他の意見)

③その他の意見

- 設問に関連付いた、渋滞や災害、観光に関する意見が多く、特に災害や観光については、広域的な視点からの意見があった。
- また、環境への配慮や産業振興を期待する意見もあった。

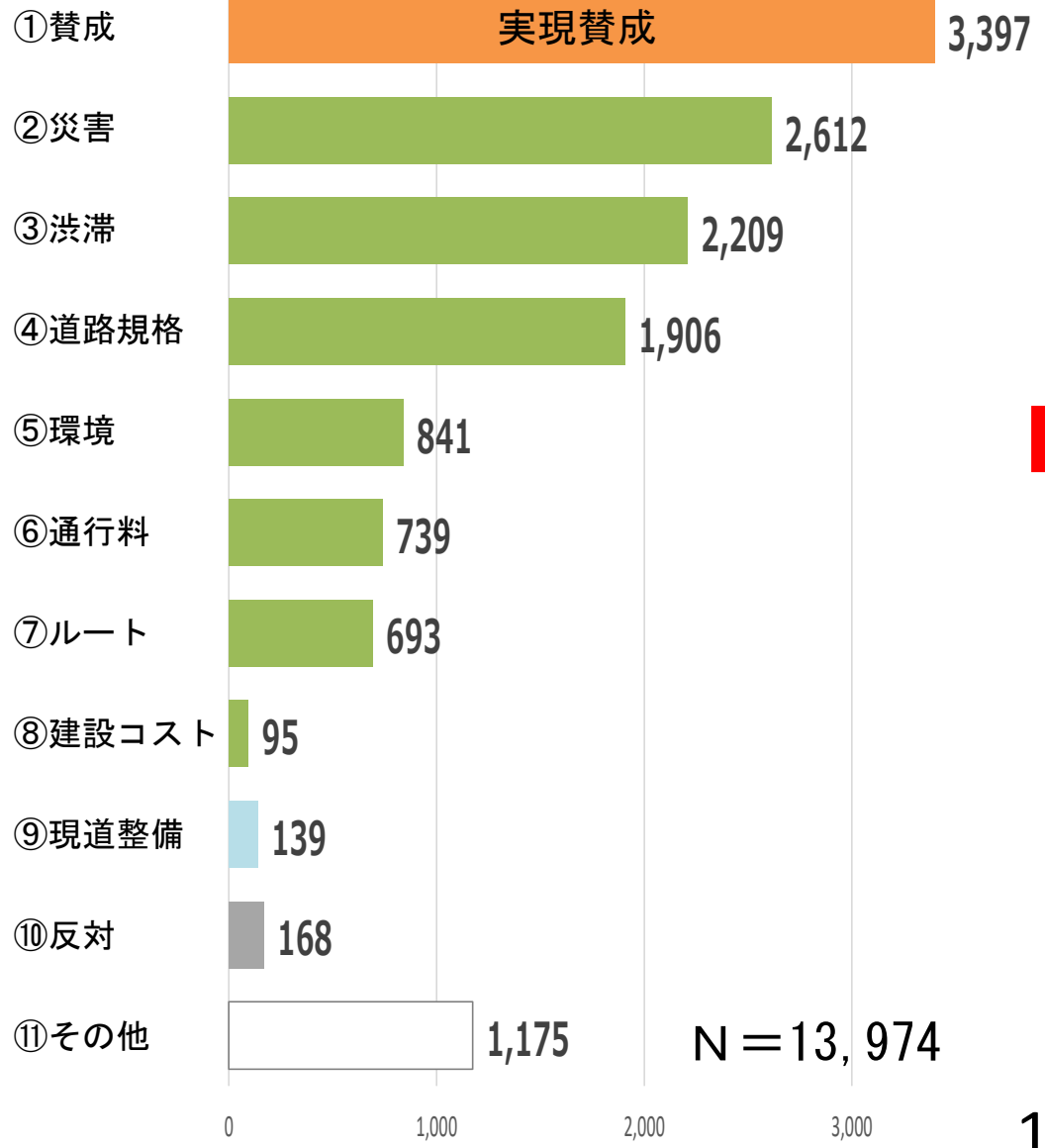
回答⑥「その他」 N=3,653

主な内容	記載
渋滞に関する事 N=484	<ul style="list-style-type: none"> ・目的地により使う道路の選択肢が増え、渋滞が緩和されることを期待 (小田原市:30代男性) ・土曜、日曜やGWなど休日に湯河原、真鶴あたりが伊豆東海岸へ出かける観光客で常に渋滞して迷惑しています。彼らを別のルートで逃がせば渋滞が緩和されます。(熱海市:50代男性) 等
災害に関する事 N=517	<ul style="list-style-type: none"> ・熱海市の土石流でも道路の重要性を再認識したので、災害や事故から命を守る道路の一日も早い完成を強く希望します。(函南町:50代男性) ・津波発生時に津波の影響を受けないような安全な場所を通る道にして欲しい。(小山町:30代男性) ・想定されている南海トラフ巨大地震や、富士山噴火などの影響が受けにくいこと。(函南町:40代男性) 等
観光に関する事 N=345	<ul style="list-style-type: none"> ・東京方面から伊豆方面へさらなる観光の足掛かりになることを強く期待します。(函南町:30代男性) ・定住や観光にも新しい道路が出来たら良いし、相当な経済効果があると思う。東京や横浜から近く、電車のアクセスは良いのだから、後は135の代替えルートが必要。(湯河原町:50代女性) ・首都圏から自動車専用道路のみで伊豆にアクセスできることを期待しています。(熱海市:30代女性) 等
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏から熱海市への物流ルートは、国道135号からではなく東名周りで三島市に入ります。そこで積み替え熱函道路経由で熱海市に入ります。無駄です。伊豆湘南道路による物流の変化を期待します。(熱海市、50代) ・有料化するとしても観光利用と生活利用で料金差をつけて欲しい。(小田原市:50代男性) ・自然環境、景観等に配慮した道路であること。(南足柄市:40代男性) ・新しく建設される道路は、始点から終点区間まで単に直結するだけで無く、複数箇所において既存の道路網からアクセスできるようにし、関係する周辺住民全体の利便性が向上されるように配慮して欲しい。(横浜市:60代男性) ・物流がよりスムーズになり、産業振興につながる。(三島市:20代男性) ・箱根経由より勾配が少なく運転しやすくなること。(小田原市:20代男性) 等

2. 第1回意見聴取の結果 2-6) 自由意見

■ アンケートの自由意見は、実現賛成の多くの意見や、広域的な視点からの意見、環境への配慮等を求める意見があった。

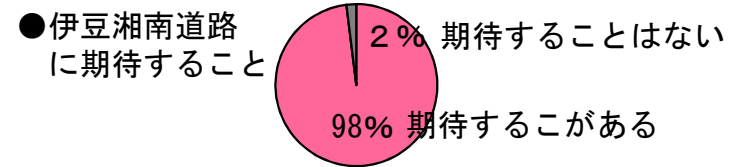
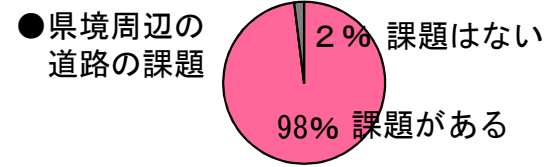
Q：神奈川と静岡の県境をまたぐ道路（伊豆湘南道路）の検討を行うにあたり、御意見や御要望等がありましたらお聞かせください。



災害	直近で予想される、富士山の噴火も考慮し計画して欲しい (小田原市・30代) 雪による新東名、東名の迂回路が欲しい (函南町・50代) 御殿場、裾野が災害の時は、東名、新東名の迂回路になる (湯河原町 70代以上) 伊豆山の土砂災害で孤立状態になった。安全安心の生活の為に伊豆湘南道路の検討は、不可欠だと思う (熱海市・60代) 近年の異常気象による降雨、高潮による冠水、土砂災害による不通など、災害時の動線確保は喫緊の課題と考えるため、本道路の必要性を強く感じている (湯河原町消防) 災害時等の迂回路確保、渋滞緩和、観光客並びに地域住民等の利便性向上のため早期の実現を希望する (小田原市観光協会)
渋滞	東京から車で行くが、渋滞がひどい (狛江市、70代以上) 都内から伊豆に行く = 時間が掛かる、家族が耐えられないイメージで敬遠している (福生市、30代) 国道135号は行楽シーズンを中心に常に渋滞しており、高速通行できる道路ではない。東京静岡間の高規格道路は東名、新東名、国道246号全てが御殿場経由であり、横浜湘南地区から静岡方面へ抜ける高規格道路が必要と考えます。 (東京都・40代)
道路規格	一年中通行可能な小田原 - 三島間のトンネルが必要。又、伊豆半島を周遊できる高規格道路としてほしい (小田原市・50代) 東駿河湾環状道路・大場函南ICへの高規格道路接続による伊豆地域へのアクセスの確保 (函南町・70代以上) 中伊豆に比べて東海岸は需要の割に高規格な道路が少ないので、建設されても無駄にはならないと思う (伊東市・20代) 広域の道路ネットワークが脆弱かつ低い規格の道路しかないので、新しい強固なネットワークを築いてほしい (小田原市・30代)
環境	環境への影響について、デメリットも伝えて欲しい (小田原市・30代) 自然環境に十分配慮し計画を進めて欲しい (小田原市・40代)
通行料	平時は有料道路として料金を徴収し、道路の保守・整備に充て、災害時は無料化し救援等の迅速を図る (小田原市・60代) 伊豆縦貫道の函南より西湘バイパスや小田原厚木道路へ繋げ、有料路線とする事。国道1号線のバイパスとして機能する様に建設する必要が有る (熱海市・60代)
ルート	小田原から沼津に抜けるバイパスが欲しい西湘バイパスに接続もありかと思います (八潮市・50代) 理想は箱根の国道1号線にトンネルを通すのが良いと思います (伊豆の国市・50代) 小田厚道路から、伊豆縦貫道路まで通してほしい (熱海市・50代) 名古屋方面に向かうために新東名高速に接続する高規格道路があると便利 (湯河原町・50代)
建設コスト	建設費用や工事期など費用対効果をわかりやすく出していきたい。 (熱海市・30代) 観光目的だけでなく、生活道路 (救急輸送路など) としての整備や環境への配慮、盛り土切り土の安全対策などを費用対コストを多面的に検討してほしい。 (小田原市・30代)
その他	県境を跨ぐエリアは山あり海ありで難工事が予想されるので、地形、地質の調査は念入りにして頂き、安全第一でお願いします (渋谷区・50代) 工事段階での地盤沈下などが無いよう、地盤や土壌をしっかりと調査して施工してほしい (小田原市・40代)

2. 第1回意見聴取の結果 2-7)まとめ

- 大多数の方が、県境周辺道路の道路に課題があり、伊豆湘南道路に期待することがあると回答。
- アンケート結果や前回の委員からの指摘事項を踏まえ、政策目標(案)については、広域性、快適性、産業振興などの側面から一部修正が必要。



アンケート結果		(主な意見)
課題	①災害等による通行止の際に代わりになる道路がないこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域的な道路ネットワークが脆弱、高波、高潮、土砂災害により通行止めとなる ● 富士山の噴火も考慮した計画にして、雪などの災害時に東名、新東名の迂回路としても機能する事を期待
期待	①災害等に強く、迂回可能な道路網がつけられること	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年台風第19号の際に、国道138号が土砂崩れにより約3か月間通行止めとなり、町民生活にも大きな影響が生じた
課題	②高低差やカーブが多く、交通事故が多いこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 高低差やカーブが多く事故のリスクが高い ● 交通量の増加に伴う、生活環境への配慮が必要
期待	②周辺道路の事故が減少すること	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道1号や熱函道路は、不慣れな運転手にとっては危険と感じる
課題	③規格の高い道路が少なく所要時間がかかること	<ul style="list-style-type: none"> ● 都内から車で行くには、渋滞がひどく時間がかかる、規格の高い道路が必要 ● 救急搬送時間の改善が必要
期待	③移動時間が短縮されること	<ul style="list-style-type: none"> ● アクセス性が向上し通勤圏の拡大や企業間ネットワークの拡大が図られる
課題	④渋滞により目的地への到着時間が読めないこと	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活道路と観光道路が混在し、休日や季節によって渋滞が発生 ● 休日などで渋滞が酷く荷物の配送時間が読めない
期待	④到着時間が読めること ⑤観光振興など地域の活性化に寄与すること	<ul style="list-style-type: none"> ● 観光シーズンになると地域住民から「生活道路への通過交通が増加するため対策をして欲しい」と要望されており、当該道路により問題解決が期待できる

政策目標(案)に対する前回の委員からの指摘事項

渋滞緩和による環境負荷軽減や快適性向上の要素を入れた方が良い

速達性、定時性の確保を目標に掲げる中、物流効率化がもたらす産業振興の側面を入れた方がよい。

意見聴取結果と第1回委員会での委員意見を踏まえ、政策目標(案)を一部修正。

3. 政策目標の設定

■ 魅力あふれる圏域を支える広域道路ネットワークの構築に向けて、「災害に強い道路網【防災】」、「安全で快適な走行環境【安全・安心】」、「速達性の確保【医療、産業】」、「定時性の確保【観光、産業】」の4項目を政策目標とする。

修正箇所	修正内容		理由
	変更前	変更後	
	安全な走行環境	安全で快適な走行環境	渋滞による環境負荷軽減や快適性向上の要素を追加
速達性の確保 定時性の確保	物流	産業	物流効率化がもたらす産業振興の側面を追加
災害に強い道路網	代替ルートの確保により	代替ルートを確保し広域的な視点において	東名や新東名の代替ルートとしての機能など広域的な視点を含むことを明確化

変更前: 第1回委員会提示
「魅力あふれる圏域を支える広域道路ネットワークの構築」に向けた政策目標(案)

<p>災害に強い道路網【防災】</p> <p>災害時における代替ルートの確保により安全・安心な道路網を確保</p>	<p>安全な走行環境【安全・安心】</p> <p>生活交通や通過交通の安全な走行環境を確保</p>
<p>速達性の確保【医療、物流】</p> <p>救急搬送や物流効率化を支援するため速達性を確保</p>	<p>定時性の確保【観光、物流】</p> <p>長距離移動と短距離移動の交通を整流し定時性を確保</p>



変更後:
「魅力あふれる圏域を支える広域道路ネットワークの構築」に向けた政策目標

<p>災害に強い道路網【防災】</p> <p>災害時における代替ルートを確保し広域的な視点において安全・安心な道路網を確保</p>	<p>安全で快適な走行環境【安全・安心】</p> <p>生活交通や通過交通の安全で快適な走行環境を確保</p>
<p>速達性の確保【医療、産業】</p> <p>救急搬送への支援や物流効率化による産業振興を支援するため速達性を確保</p>	<p>定時性の確保【観光、産業】</p> <p>長距離移動と短距離移動の交通を整流化し定時性を確保</p>

※ 政策目標は、今後の社会情勢の変化を踏まえ、必要に応じて見直す 19

4. 今後の検討の進め方(案)

■ ルート帯の絞り込み(複数案の設定)に向けた今後の課題

① 広域道路ネットワークにおける位置づけの整理

- ・広域的な人流、物流の動向(伊豆半島と首都圏、中部圏の関わりについて、ビックデータ等を活用し、観光客の居住地・交通手段、漁港からの出荷先、配送ルートなど)の把握
- ・想定される大規模災害(地震、津波、富士山噴火など)による道路交通への影響の把握
- ・上記を踏まえた、本道路に求められる機能の整理(東名・新東名、国道1号等との機能の分担など)
- ・求められる機能に基づく、神奈川側の望ましい接続先の絞り込み

【広域的な移動での活用を期待するアンケート意見】

- ・「直近で予想される、**富士山の噴火も考慮し計画**して欲しい」(小田原市、30代)
- ・「**東名、新東名のバイパスとしても機能**すべく高規格な道路が望ましい」(中原区・30代)

② 技術的な課題等への対応

- ・ルート帯が想定されるエリアにおける地質・地盤リスクの調査検討
- ・工事事例等の調査(JR東海道本線・新幹線の丹那地区の事例、新幹線と道路がトンネル同士で交差する他県事例など)
- ・全体事業費に応じた整備手法(有料道路事業等)の調査検討

【技術的な課題等に関するアンケート意見】

- ・「山や海で難工事が予想される、念入りに**地形、地質の調査**をお願いします」(渋谷区・50代)
- ・「工事段階で地盤沈下などが無いよう、**地盤や土壌をしっかりと調査**してほしい」(小田原市・40代)

③ ルート帯が想定されるエリアにおける配慮すべき事項の把握

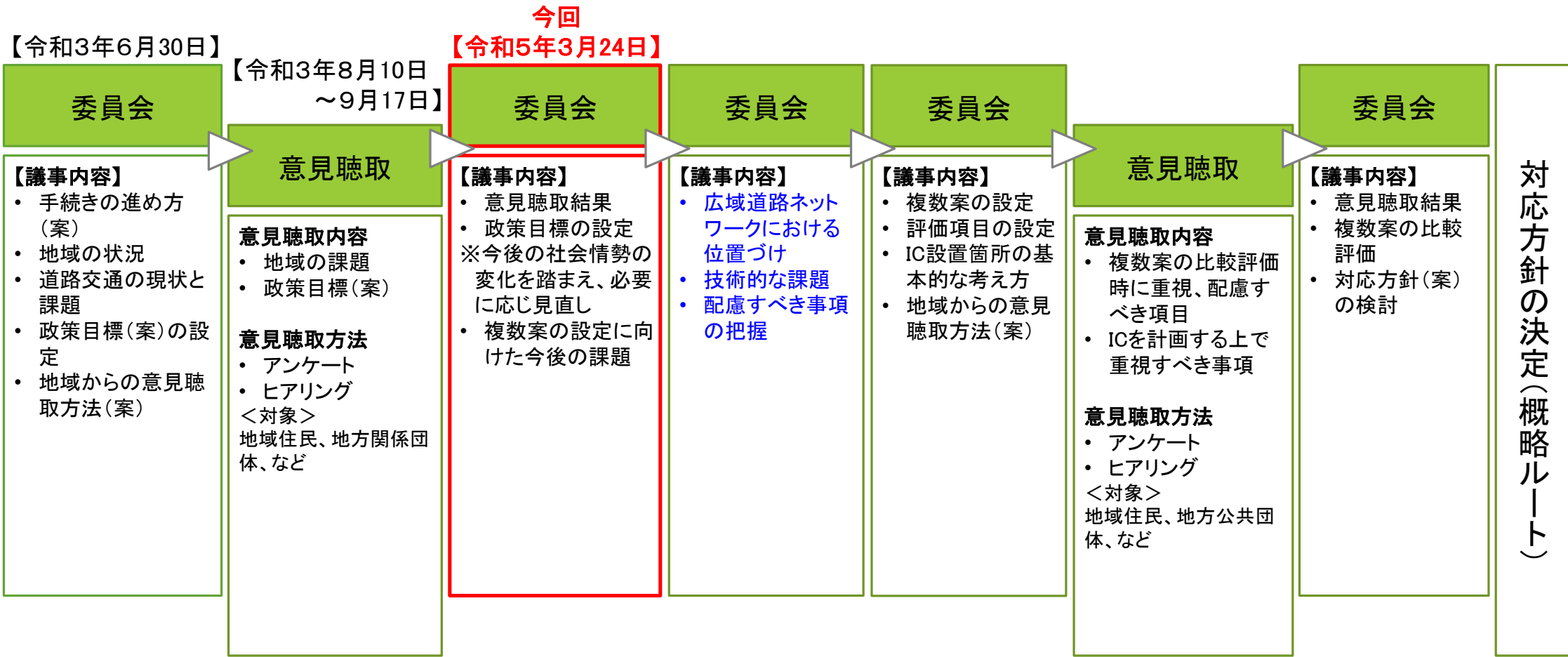
- ・動植物や地下水、温泉源泉などの自然環境に関する調査、土地利用、史跡、災害履歴、道路・鉄道のルート選定の経緯などに関する調査(文献、ヒアリング、現地調査など)

【環境に関するアンケート意見】

- ・「**環境への影響**について、**デメリットも伝えて**欲しい」(小田原市、30代)
- ・「**自然環境に十分配慮し計画**を進めて欲しい」(小田原市、40代) など意見約840件

4. 今後の検討の進め方(案)

■ 委員会の進め方(案)



※ 課題等に対応する多くの検討項目について、適切に整理検討していく。審議状況等により、委員会は追加開催する場合がある。

4. 今後の検討の進め方(案) ① 広域道路ネットワークにおける位置づけの整理

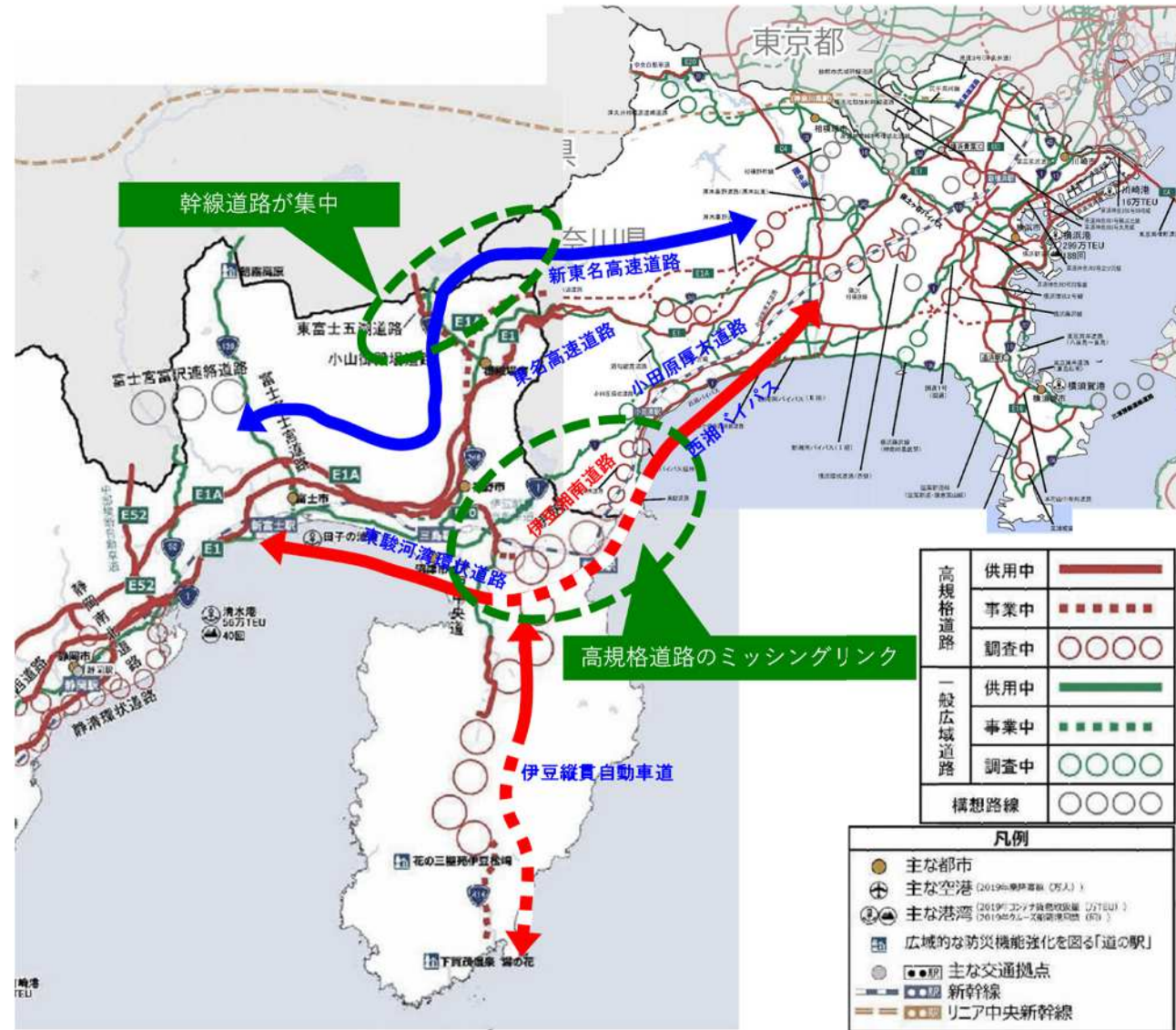
■ 広域的な視点から見た伊豆湘南道路を取り巻く状況

<新東名、東名高速道路>

- 新東名高速道路は、我が国の社会経済活動の根幹を担う新たな大動脈
- 東名高速道路とダブルネットワークを形成し、交通機能を分担することで、高速性・安定性を確保
- しかしながら、静岡と神奈川の県境では、高規格幹線道路の東名、新東名は、富士山麓の限られたエリアに集中

<伊豆湘南地域の現状>

- 神奈川県側には小田原厚木道路、西湘バイパス、静岡県側には東駿河湾環状道路などがある中、本地域は高規格道路のミッシングリンク
- 新広域道路交通計画では、伊豆湘南道路を、広域的な道路ネットワークを構成する高規格道路として位置づけ



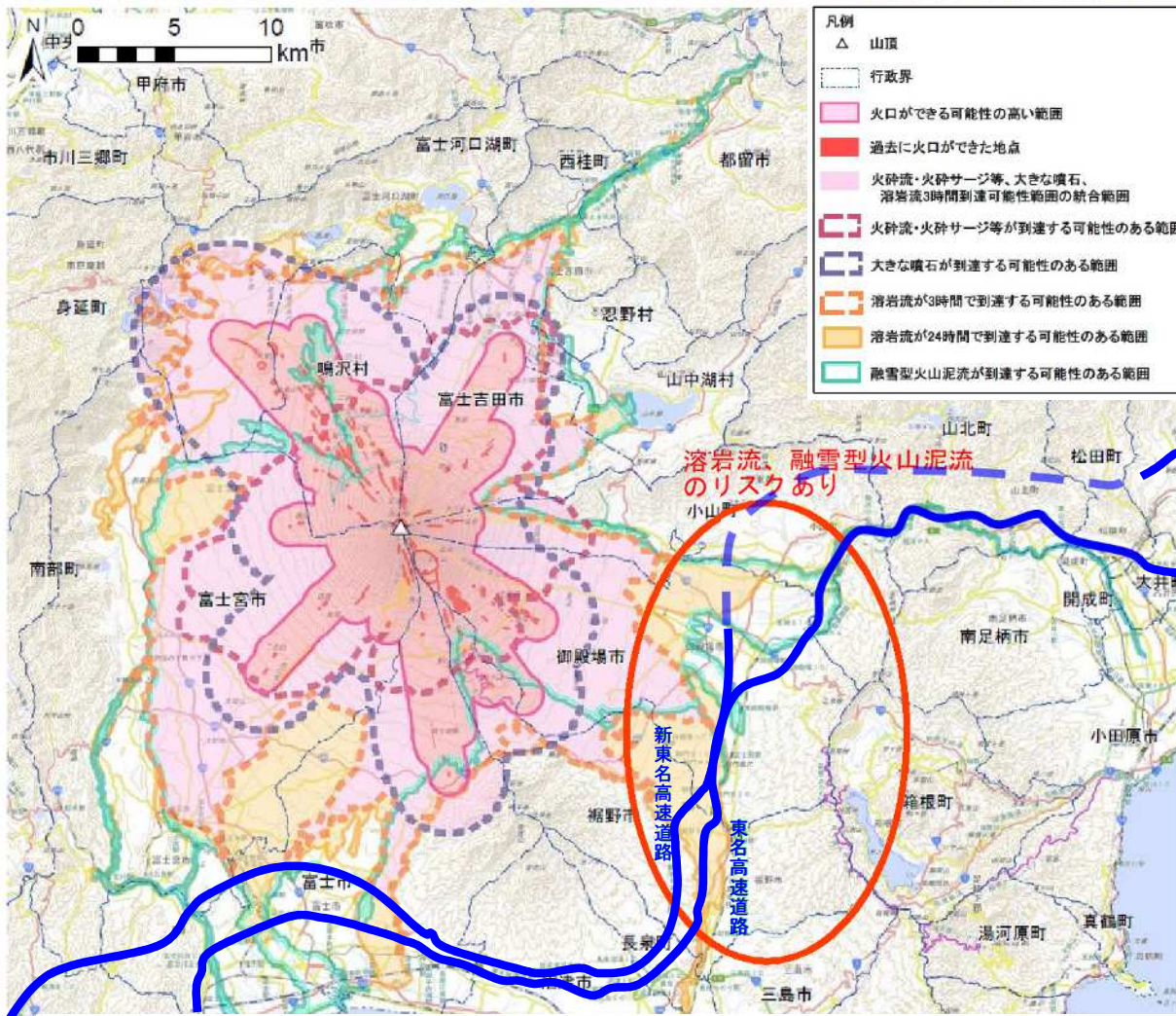
新広域道路交通計画 (中部ブロックR3.3) 広域道路ネットワーク計画図 (関東ブロックR3.7の重ね図)

4. 今後の検討の進め方(案) ① 広域道路ネットワークにおける位置づけの整理

■ 富士山噴火のリスク

※ 富士山ハザードマップ(令和3年3月改定)

- 東名高速道路や新東名高速道路は、溶岩流の影響の予測範囲に入っている。降灰や溶岩流などによる道路交通への影響を把握し、伊豆湘南道路の機能を整理していく



検討イメージ

様々な災害における危険地域を把握



リスクのあるエリアなど各コントロールポイントの重ね図を作成



(複数案の設定)
災害時に伊豆湘南道路が機能するように、コントロールポイントを回避するルート検討

ここに着色されているすべての範囲が、同時に危険になるわけではありません。[仮に富士山が噴火した場合に、溶岩流・大きな噴石・火砕流などの影響がおよぶ可能性の高い範囲を、すべて重ねて描いたものです。]

4. 今後の検討の進め方(案)

② 技術的な課題等への対応

■ 地質・地盤リスクの調査検討

- 伊豆湘南地域は、火山性噴出物(溶岩、火砕岩)が卓越し、多くの活断層がみられることから、地質・地盤リスクが比較的大きいことが想定されるため、平成28年に福岡市博多駅前が発生した道路陥没事故を契機として策定された、「土木事業における地質・地盤リスクマネジメントガイドライン(国土交通省・土木研究所等、令和2年3月)」に基づき、構想・計画段階から地質・地盤リスクマネジメントを実施していく。

第1回委員会資料 地域の状況①自然地質

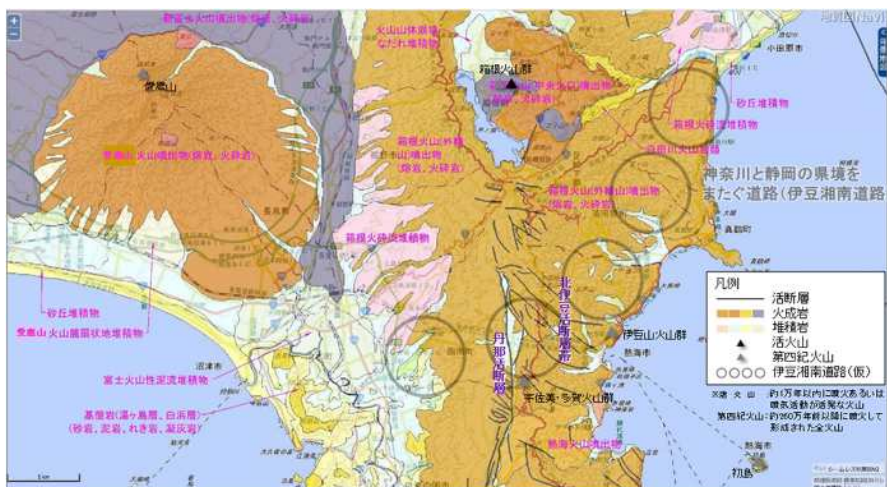
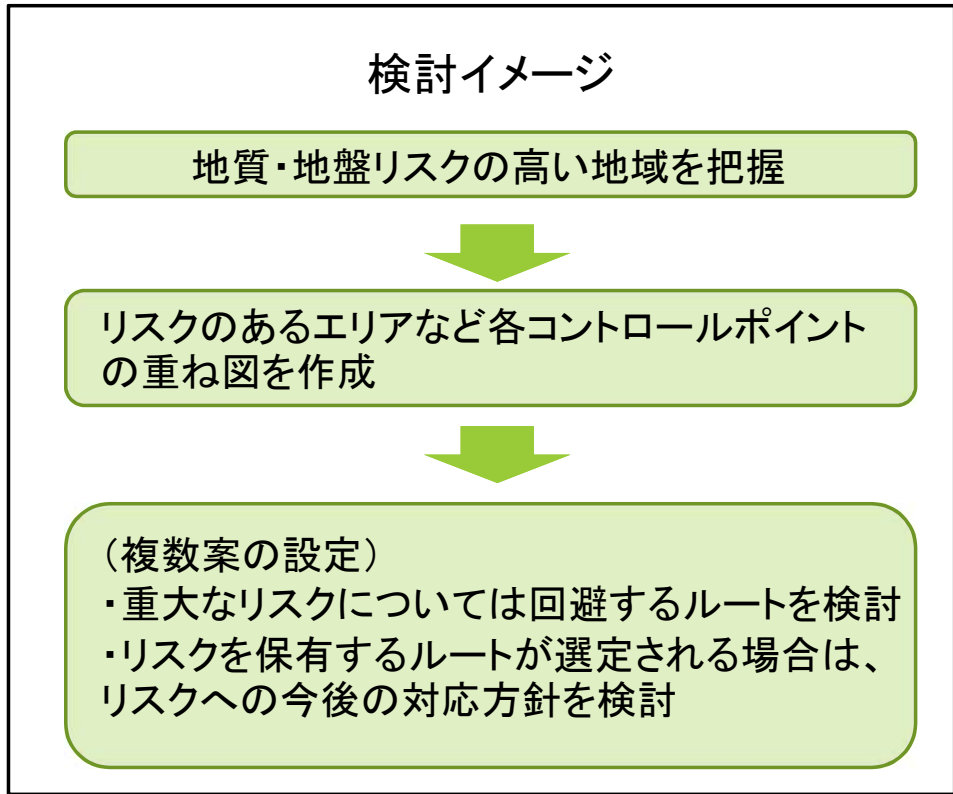


表 5-3 概略設計段階の地質リスク検討の内容

実施段階	構想・計画段階(都市計画決定前)
設計段階	道路概略設計(ルート帯の検討・選定段階)
検討段階	地質リスク予備検討
目的	路線選定のための広範囲で大局的な調査・検討
検討手法	<ul style="list-style-type: none"> ・地形地質文献資料の収集整理 ・災害履歴、被災想定資料の収集整理 ・既往地盤調査資料の収集整理 ・地形解析(空中写真判読、航空レーザ測量図解析)
検討項目	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地域の地形地質の特徴と危険区域の抽出 ・過去の災害履歴と被害想定のとりのまとめ ・地盤環境、地下水環境等の特徴とリスク保有地域の抽出 ・地質リスクの評価(リスクランク)と対応方針の検討(ランク AA の確実な抽出と回避方針の提案) ・リスク措置計画立案(予備地質調査の提案)



※地質リスク低減のための調査・設計マニュアル(案)改訂版より
(令和3年3月 国土交通省近畿地方整備局)

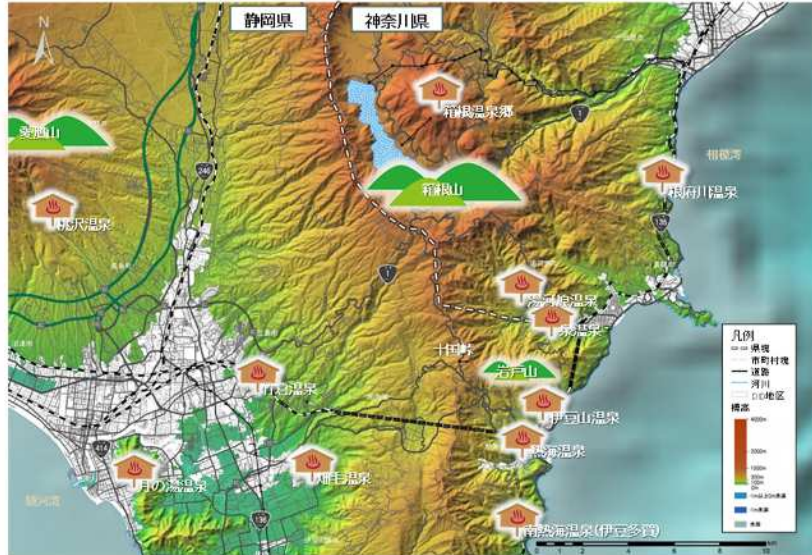
4. 今後の検討の進め方(案)

③ ルート帯が想定されるエリアにおける配慮すべき事項の把握

■ 自然環境に関する調査

- 伊豆湘南地域は、豊かな自然を有し、箱根山からの温泉も多く見られ、構想段階から、動植物の希少種の存在や、地下水、湧水などの水源、源泉などについて、文献、ヒアリング、現地調査を実施する。

第1回委員会資料 地域の状況①自然・土地利用



国立公園・県立自然公園の区域



※環境省_環境アセスメントデータベースより作成

国立公園	第3種特別地域	第2種特別地域
特別保護地区	普通地域	第3種特別地域
第1種特別地域	都道府県立自然公園	特別地域(個別未決定)
第2種特別地域	第1種特別地域	普通地域

